

令和 6 年度版「赤穂の環境」の概要について

1. 大気環境

(1) 硫黄酸化物（二酸化硫黄）

- ・一般環境大気監視局（8 局）において環境基準に適合していた。
- ・年間平均値（8 局平均）は 0.002 ppm であり、低濃度で推移している。

(2) 浮遊粒子状物質

- ・一般大気監視局（8 局）において 1 時間値・日平均値ともに環境基準に適合していた。
- ・年間平均値（8 局平均）は 0.012 mg/m³ であり、近年同程度の値で推移している。

(3) 窒素酸化物（二酸化窒素）

- ・一般環境大気監視局（8 局）において環境基準に適合していた。
- ・年間平均値（8 局平均）は 0.006 ppm であり、近年同程度の値で推移している。

(4) 光化学オキシダント

- ・市役所局及び有年監視局において測定。
- ・環境基準適合率は 91.4～95.6 % であった。
- ・年間平均値（2 局平均）は 0.033 ppm であった。
- ・光化学スモッグ広報等は、市役所局のデータに基づき兵庫県より発令されることとなっているが、令和 5 年度、光化学スモッグ予報及び注意報の発令はなかった。

(5) 降下ばいじん

- ・市内 10 地点において測定。
- ・年間平均値は 2.34 t/km²/月であり、本市の環境目標値に適合しており、また、近年同程度の値で推移している。

(6) 微小粒子状物質（PM2.5）

- ・平成 25 年 11 月から市役所において測定開始。
- ・1 時間値の年間平均値は 5.1 µg/m³ であり、環境基準に適合していた。
- ・赤穂市を含む播磨西部地域において注意喚起情報の発信はなかった。

2. 水質環境

(1) 河川

千種川、長谷川、加里屋川、新川、大津川、塩屋川、矢野川の 7 河川、15 地点において水質調査を実施。

・千種川の環境基準適合率

水素イオン濃度(pH)	生物化学的酸素要求量(BOD)	浮遊物質質量(SS)	溶存酸素量(DO)	大腸菌数
100%	100%	100%	93%	86%

・その他の河川の環境目標値適合率の総合評価

水素イオン濃度(pH)	生物化学的酸素要求量(BOD)	浮遊物質質量(SS)	溶存酸素量(DO)
100%	96%	79%	100%

(2) 海域

地先海域の11地点において水質調査を実施。

・地先海域における環境基準適合率

水素イオン濃度(pH)	化学的酸素要求量(COD)	溶存酸素量(DO)	大腸菌数
95%	61%	73%	100%

前年度よりCOD、DOの適合率は上がっていた。

3. 地球温暖化

(1) 赤穂市全体の温室効果ガス排出量

令和5年度の赤穂市全体の温室効果ガス排出量は、CO₂換算で約289万t-CO₂/年となった。

